

感染症についてのお知らせ



つながる
墨田区

墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和3年
11月号

東京都内の感染症流行情報

都は感染性胃腸炎の流行期を前に注意喚起の報道発表を行いました
ヘルパンギーナの定点当たり報告数が増加しています

感染症のお知らせ

感染性胃腸炎について

例年、11月から2月にかけての時期は、腹痛や下痢、おう吐を主な症状とする「感染性胃腸炎」の集団感染が多数報告されています。今後の流行に備え、感染対策についてご注意願います。特に、保育所、学校、高齢者施設においては、衛生管理に注意し、集団感染が発生した場合は保健所へ相談・報告してください。

< 感染性胃腸炎とは >

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには「ノロウイルス」「サポウイルス」「ロタウイルス」「アデノウイルス」などがあります。

主な症状は腹痛、下痢、おう吐、発熱です。

< 感染経路と治療 >

ウイルスを内臓に取り込んだカキなどの二枚貝を、生あるいは加熱不十分なまま食べて感染する場合や、ノロウイルスに感染した人が十分に手を洗わず調理した食品を食べた場合などの感染があります。ウイルスを原因とする感染性胃腸炎は特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための治療（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では下痢などによる脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。

< 予防のポイント >

こまめな手洗いを習慣づけましょう。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

おう吐物やふん便を処理する時は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使用しましょう。（消毒用エタノール等を用いて消毒を行うことは適当ではなく、次亜塩素酸ナトリウムを用いましょう。）処理をした後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう（施設では処理用具のセットを予め準備しておきましょう。）

ノロウイルスはカキなどの二枚貝に潜んでいることがあります。調理する際は、中心部まで十分に加熱しましょう（中心温度85～90℃で少なくとも90秒間の加熱が必要です）。

水痘（水ぼうそう）について

墨田区内保育園や小学校において、水痘（水ぼうそう）が発生しており集団発生している所もあります。

水痘とは、水痘-帯状疱疹ウイルスによる感染症で、一般的には「水ぼうそう」として知られています。小児によく見られる病気で、2～8歳に多く見られます。

< 感染経路 >

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる感染（飛沫感染）、あるいは、水疱内容物や粘膜に接触することによる感染（接触感染）や、空気中に飛んでいるウイルスを吸い込む感染（空気感染）です。

< 症状 >

潜伏期間は2～3週間程度です。

主な症状は水疱(水ぶくれ)と38℃前後の発熱です。

全身に直径3～5mm程度の丘疹(盛り上がった赤い発疹)が出現し、水疱、膿疱、痂皮(かさぶた)と移行しますが、様々な段階の発疹が混在するのが特徴的です。

すべての発疹が痂皮になるまで6日程度かかります。

通常、軽症で生涯免疫(一度の感染で生涯、その感染症にかからない)を得ることが多いのですが、成人では重症になることがあり、髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度も高くなります。また、ウイルスは治癒後も体の中に潜伏して、何年も経過してから「帯状疱疹」として再発することがあります。

また、妊婦の場合は重症化しやすいといわれています。

< 治療 >

基本的には対症療法です。抗ウイルス薬を使用することもあります。

< 予防のポイント >

有効な予防法は予防接種です。

水痘ワクチンは2014年10月より定期接種となっています。生後12か月から36か月に至るまでの間に、3か月以上の間隔をあけて(標準的には6～12か月)2回接種します。

水痘未罹患者が水痘患者と接触した場合、接触後72時間以内に緊急的にワクチン接種をすれば、発症を予防する可能性があります。

< 学校保健安全法の登校の基準 >

すべての発疹が痂皮化するまで出席停止となっています。

このお知らせは、東京都感染症情報センター（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>）の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」（<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/>）を基に作成しています。